



2026年8月13日

各位

会社名 株式会社 T O R I C O
代表者名 代表取締役社長 安藤 拓郎
(コード番号：7138 東証グロース市場)
問合せ先 専務取締役 鯉沼 充
(TEL. 03-6261-4346)

ETH 建てヘッジファンドへの出資に関するお知らせ

当社は、2026年8月13日開催の取締役会において、当社が推進する「稼ぐトレジャリー」戦略の一環として、保有する暗号資産（ETH）の運用効率及び利回りの向上を目的に、Hyperithm LLC

(F, 217, Gwanak-ro, Gwanak-gu, Seoul, Republic of Korea、代表取締役：Sangrok Oh、Wonjun Lee) が運用アドバイザーを務めるETH建てヘッジファンドへの出資を決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

なお、本件に係る投資実行は現時点で未了であり、2026年8月中の実行を予定しております。実行時期および条件については、今後変更となる可能性があります。

記

1. 出資の理由・背景・目的

当社は、日本発のイーサリアムトレジャリー企業として、暗号資産を単純に保有するだけでなく、収益獲得のための事業用資産として活用し、「稼ぐトレジャリー」としての当社独自の PER 型金融モデルの確立を目指すデジタルアセット・トレジャリー（DAT）戦略を推進しております。これまで当社は、保有するイーサリアム（以下「ETH」）のステーキング運用に加え、ターゲットバイイング戦略（プットオプションの売却）を通じた ETH 取得プロセスそのものの収益化や取得コストの実効的抑制を図るなど、運用手法を拡大してまいりました。

今般、こうした「稼ぐ ETH トレジャリー」の推進と運用のさらなる高度化を目的として、当社は自社運用に加え、外部の暗号資産ヘッジファンドへの出資を検討し、15 社以上の暗号資産ヘッジファンド及び運用会社を対象にデューデリジェンスを実施いたしました。

評価に当たっては、ETH 建てでの運用が可能であること、十分な運用実績を有すること、マーケットニュートラル戦略を基本とすること、2022 年 11 月の FTX 破綻を含む市場混乱局面を実運用で経験していること、運用実績、最大ドローダウン、流動性、ガバナンス、外部監査体制、独立したファンドアドミニストレーターによる NAV 算定体制、リスク管理体制等を主要な評価項目として比較・検証を行いました。

その結果、当社は、本ファンドが、当社が定めた投資基準を満たす数少ないファンドであると判断いたしました。

本ファンドは 2022 年の運用開始以来、Terra/LUNA 崩壊や FTX 破綻など暗号資産市場の大規模な混乱局面を経験しながらも運用を継続しております。また、ETH 建てクラスの実績においても、安定した運用実績を有しております。

比較対象には、より高い期待リターンを提示するファンドも存在しましたが、それらの多くは運用期間が短く、特定の市場環境や戦略への依存度が高い傾向にありました。一方、本ファンドは長期にわたる運用実績を有するとともに、暗号資産価格の方向性に依存しないデルタニュートラル戦

略を基本とし、複数の市場環境において安定した運用実績を積み重ねております。

また、本ファンドはETH現物で出資し、リターンもETH建てで受領する仕組みであることから、当社はETHエクスポージャーを維持したまま、保有ETH数量の増加を目指すことが可能となります。当社は、本ファンドが当社のDAT戦略及びトレジャリー運用方針との親和性が高いと判断し、本件出資を決定いたしました。

2. 出資の概要

(1) 出資対象ファンドの基本情報

項目	内容
ファンド名称	Hyperithm Arbitrage Fund SP
組成地	ケイマン諸島
アドバイザー	Hyperithm LLC
投資マネージャー	Incu Capital Management Limited (ケイマン諸島)
事業内容	暗号資産を含むアービトラージ、アルゴリズム、自動売買
当社との関係	資本関係、人的関係、取引関係および関連当事者関係はありません。

(2) 当社の出資条件

項目	内容
出資金額	当社保有ETHを原資とする出資 (60 ETH ※日本円換算 17.9 百万円)
出資方法	当社保有ETHを原資として現物出資
契約締結日	2026 年 8 月中予定
投資実行日	2026 年 8 月中予定

※出資金額の日本円換算額は、CoinGecko における 2026 年 8 月 12 日時点のETHの終値に、MUFG が公表する同日時点の米ドル/円 TTM を乗じて算出しております。

(3) ファンドの投資戦略および運用体制

本ファンドは、暗号資産価格の方向性に依存しないデルタニュートラル戦略を基本方針とし、マーケットニュートラル・アービトラージを中心に運用を行っております。

運営体制については、ファンドアドミニストレーターである NAV Consulting が独立した立場で純資産価額 (NAV) の算定及び管理を行い、監査法人である RSM Cayman が監査を担当するなど、運用・資産管理・評価・監査をそれぞれ独立した主体が担うガバナンス体制を構築しております。

(4) 主要なリスク要因

本ファンドは、暗号資産価格の方向性による影響を抑制するデルタニュートラル戦略を採用しておりますが、暗号資産市場固有のリスク、取引先の信用リスク、流動性リスク及び市場環境の急激な変化等により、期待した運用成果が得られない可能性があります。

また、本ファンドでは DeFi プロトコルを活用した運用も行うことから、スマートコントラクトの脆弱性、システム障害、秘密鍵管理上の問題その他のセキュリティインシデントに起因する損失が発生する可能性があります。

なお、当社は、本件出資に当たり、15 社以上の暗号資産ヘッジファンド及び運用会社を対象としたデューデリジェンス並びに外部専門家による法務レビューを実施し、運用実績、運営体制、ガバナンス、流動性及びリスク管理体制等を総合的に評価した上で投資判断を行っております。

3. 今後の見通し

本件出資に伴い、当社は保有するイーサリアム (ETH) を原資として本ファンドへ出資を行います。当該出資に係る評価及び運用成果については、当社の会計方針に基づき四半期末ごとに時価評価を行い、その評価差額を業績へ反映する予定です。

本件出資は、当社が推進するデジタルアセット・トレジャリー (DAT) 戦略における外部運用の

第一歩として位置付けております。当社は今後も、自社運用に加え、暗号資産ヘッジファンドをはじめとする外部運用商品の継続的な調査及びデューデリジェンスを実施し、運用実績、リスク管理体制、ガバナンス、流動性及び市場環境等を総合的に評価してまいります。

また、複数の運用会社及びファンドの運用状況を継続的にモニタリングするとともに、有望な運用先をウォッチリストとして管理し、各ファンドの運用実績、リスク・リターン、市場環境及び当社のポートフォリオ全体の資産配分を踏まえ、新規投資、追加投資及びリバランスを機動的に検討・実施することにより、保有 ETH の運用効率及び収益性の向上を目指してまいります。

当社は、今後も「ETH エクスポージャーを維持しながら保有 ETH 数量の増加を目指す」というトレジャリー運用方針の下、自社運用と外部運用を組み合わせた最適なポートフォリオの構築を進めることで、中長期的な企業価値の向上に取り組んでまいります。

なお、本件出資は当社の業績に一定の影響を与える見込みですが、暗号資産価格の変動、本ファンドの運用状況及び市場環境等により、実際の業績への影響額は変動する可能性があります。今後、開示すべき事項が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

以 上